

令和4年度 江戸川区立葛西中学校 学校関係者評価 中間評価用報告書

学校教育目標		「豊かな心」 ・自ら進んで学ぼう　・責任を果たそう　・健康な生活を送ろう		目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像		・保護者にとって、子どもを通してよかったと思える学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた生徒 ・人権尊重の精神に富み、自身の職務に専念し、生徒・保護者から信頼される教師					
前年度までの学校経営上の成果と課題			<成果>・コロナ禍で一昨年実施できなかった行事においても、昨年度は感染対策を実施しながら、実施することができた。 ・ESDに関して、少しずつではあるが各授業、行事において意識し教育活動にあたるようになってきた。 <課題>・本校独自の不登校対策支援シートを用いて、不登校生徒の未然防止に努めてきたが、不登校生徒が前年度より増えてしまった。教育相談体制を充実させることにより、不登校の減少を図る。 ・学習タブレットを活用した、教員の授業力・指導力を向上させるために、校内研修の充実を図る。								
教育委員会 重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた 改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント		
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「確かな学力向上推進プラン」に基づき、全教員が学習タブレットを利用し授業改善を実施し、生徒の学力向上を目指す。 ・補習教室の委託会社トライと連携し、年間を通して、補習教室のより一層の充実させる。 ・「eライブラリアドバンス　江戸川っ子study week」を学期に1回実施	・全教員が学習タブレットを授業で活用できるようにする。また、令和3年度より、C,D層の生徒を5パーセント以上の削減 ・補習教室参加生徒の確認テストの達成率を、年度初めより年度末を5％向上を目指す。 ・eライブラリアドバンスを試験勉強等で活用する生徒70％以上	B	C	●全教員がタブレットを活用し授業をすすめている。C、D層の生徒の割合は、全国学力調査の結果から、令和3年度は44％、令和4年度も44％であった。今後も、授業改善進め、C、D層の割合を削減を目指す。 ○補習教室は現在、実施中である。 ○「eライブラリアドバンス　江戸川っ子study week」で活用を勧めている。	B	・補習教室を開催する等、学力向上に向けた取組が行われています。 ・技能教科(4教科)ではタブレットを有効活用し授業を行っていただいておりますが、主要教科(5教科)では活用が少ないと感じています。	・補習教師室の、出席率の向上を図る。 ・eライブラリアドバンスのさらなる。 ・補習教室、少人数指導による、C、D層の一層の学力向上。	
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・年間を通して、体育の授業において、5分以上の補強運動を実施する。 ・昼休みの「外遊び」の奨励	・東京都体力テストで、前年度よりAかつBの割合が10パーセント向上	B	未	○1学期に東京都体力テストを実施した。今後、結果が公表される。 ○昼休みは、学級の30％以上の生徒が、昼休み校庭で遊んでいる状況である。	A	・校庭や屋内運動場を活用し、継続して体育の授業が行われています。 ・運動会においても、練習等で体力が向上し全員が諦めることなく、最後までゴールに向かい走り続ける等練習の成果が発揮されました。	・引く続き、授業での補強運動を実施、さらなる体力向上を目指す。	
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・各学年において、読書紹介や新聞づくりなどに向けて探求的活動を行い発表を行う。年1回以上実施する。 ・学校司書、学校応援団による、学校図書館の整備と開放 ・読書科の取組をホームページで公表	・読書科に取り組みにおいて、保護者アンケートの肯定的意見70％以上。 ・学校応援団と生徒が協働した、ボランティア活動による図書館整備。 ・読書科の取組のホームページを毎月更新する。	B	C	○朝読書、調べる学習コンクールへの出品、お勤めの本づくりを実施した。 ○夏休みに2日間ボランティア活動を実施。延べ約40名の生徒が参加。 ○ホームページは随時更新している。	A	・朝、読書をする時間が継続して確保されており、本を読む習慣作りが行われています。 ・図書館にも多くの本が並んでいて、本と触れ合う環境が整っている。	・学校図書館のボランティア活動を、2学期、3学期で計2回実施。 ・お勤めの本づくり、2学期、3学期で計2回実施。	
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援専門員、心理士、SCとの連携を教育相談委員会を通して強化し、エンカレッジルームの活用を促進する。	・教職員、保護者の学校評価のアンケートにおいて、肯定的意見80パーセント以上を目指す。	C	C	●教室には難しいが、放課後等、エンカレッジルームなら登校することができる生徒が数名いる。まだまだ、不登校の生徒は多いので、エンカレッジルーム登校をきっかけに改善できるよう促していく。	B	・特別支援が必要な生徒に対して、家庭訪問や放課後を利用した支援を行う等、可能な限り対処されています。 ・登校は難しいが、自宅で学習したい生徒もいると考えますので、授業を撮影した動画を配信する等、タブレットを活用した支援を行っても良いのではないかと感じます。	・教育相談部会で支援が必要な生徒の共通理解を図り、個に応じた指導をさらに充実させる。	
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組の強化	・hyperQUを5月と11月の年2回実施。hyperQUの結果を検証し、学級の改善に努める。	・2回目のhyperQUにおいて、学級の満足度が向上するクラス8割以上	B	未	○1学期に1回目を実施した。hyperQUを2学期に2回目を実施予定。	B	・hyperQUにおける満足度だけで判断するのではなく、直接、生徒1人1人にヒアリングすることも必要ではないかと感じます。	・個別面談や日頃の学校生活等でも、積極的に生徒に声をかけ、生徒の悩みを聞き取るよう心掛ける。	
			・月1回のSSWの情報交換を組織的に行い、SSWとの連携を強化する。	・改善方向の事例3件以上を目指す。	B	B	○6月以降、SSWとの連携で2件の改善傾向の事例がある。課題がある生徒に対して対応を継続していく。	A	・改善方向の事例があるのは、積極的な取り組みの結果であると考えます。	・支援の必要な生徒に対して対応を明確にし、SSWとの連携を強化する。	
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校評議員会、民生委員との連絡会等で、学校関係者評価を実施し、内容の検討、改善を図る。	・学校関係者評価の内容に関して、肯定的意見80パーセント以上	B	B	○6月と9月に学校評議員を実施した。	B	・学校評議員、民生委員の発言を受け止め、改善すべき点は、前向きに検討いただいています。 ・検討や取り組みを行った結果の報告がないため、今後、フィードバックの機会があると良いと考えます。	・2回の学校評議員会で貴重なご意見をいただいている。今年度は、周年行事の計画もある。	
	家庭、地域との連携	災害発生時の対応の場合の共助の心の育成	・夏休みにPTAと連携した防災体験教室を夏休みに実施	・実施後のアンケートにおいて、肯定的な意見80パーセント以上	A	A	○8月27日に学校とPTA、江戸川区危機管理部、葛西消防署が連携し防災教育を実施した。実施後のアンケートにおいて、児童生徒のほぼ全員が、肯定的意見を記載し、目標が達成できた。	A	・夏の防災教育は、非常に充実したイベントでした。 ・コロナ禍が終われば、自治体や保護者も参加できるイベントになることを期待します。	・夏休みに実施した防災体験教室を生かして、毎月の避難訓練を計画的に実し、生徒の意識を高める。	
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・スクールサポートスタッフの有効活用 ・学校経営を担う人材(副校長補佐)を導入し、副校長の働き方改革を推進する。	・教員、副校長の10月以降(下半期)の勤務時間、月10時間の軽減を図る。	B	C	○学校として、副校長補佐に業務を組織の中に位置づけし、学校経営がさらに円滑になるよう進めている。現在、副校長の勤務時間の軽減にはなっていない。	C	・業務の見直しやデジタル化により、副校長だけではなく、教員全員が残業時間が減少するよう、継続した取り組みが必要であると考えます。	・SSWや校内業務の効率化を図り、学校全体の働き方改革を改善する。	
			・文部科学省のガイドラインに基づく、部活動の適正な実施を図る。	・保護者の部活動に対する肯定的意見80パーセント以上	B	B	○文部科学省のガイドラインに沿って、適正に部活動を運営している。	A	・放課後、土日祝日においても、部活動の時間を作っていただく等、生徒のために活動いただいています。	・今の活動状況を継続していく。	
	教員の校内研修の充実	・ICTの指導力の向上	・LINEのICT支援員と協働し、ICTの活用を向上させる研修を年3回実施する。	・保護者学校評価アンケートにおいて、ICTの活用に対する肯定的意見80パーセント以上	A	B	○LINE主催の研修を、すでに3回実施している。 ○アンケートは2学期末に実施を予定している。	B	・全ての授業においてICTの活用を検討するのではなく、活用出来る場面で効果的に活用していただきたいと考えます。	・研修を通して、明らかになった課題を整理し、その課題を克服させ、授業改善につなげていく。	